

2月が始まりました。まだまだ寒い日が続きますが、子どもたちは朝から元気に外遊びを楽しんでいます。

### 榎木サラダボウルの視点その3 平均に惑わされない

朝の元気なあいさつが響き渡ります。4月とはずいぶん違う、成長した姿が随所にみられます。学校までの足取りが重かったかんださん（仮名）も、お友達と元気に登校中。ニコニコ笑顔で、手がチョコ。私がパーで手を振っている…う～ん、負けた…



子どもたちそれぞれの成長に心が躍る、本当に素敵な朝です。

改めて、一人ひとりの成長の違い（個性）には驚かされます。

平均、という言葉の意味をかみしめました。

人は圧倒的に社会的な生き物なので、社会の様子を、生来的にずいぶん敏感に受け取るようです。特に、学校という社会の中では、同じことが当たり前。私も、我が息子の学校生活にやきもきしたものです。そこでよく口にした言葉が「あの子はできているのに…」

つまり、私は、平均的な成長に達しているかどうかをやきもきしていたんですね。

しかし、その平均、それほど成長には欠かせないものなのでしょうか。今号は、平均について深掘してみたいと思います。

日本人の成人男性平均身長170.2cm体重57.0kg、女性158.6cm体重49.0kg。これだけ見ると、そのくらいかなあ、と思いますよね。でも、この身長と体重の人はあまりいません。これに、座高や腹囲などの体格に関する数値の平均まで出してみると、同じ人はほぼいないといっても過言ではない。某国では、平均身長体重などを提示して、これと同じ人を募集したところ、国中でたった1人だけしか見つからなかったとか（諸説あり）。

それはそうだろうと思われたでしょうが、これが大きな悲劇を生んだことがありました。ある時期、アメリカ空軍戦闘機のコックピットサイズは、平均的なアメリカ成人男性の身長、座高に基づいて設計されていたそうです。しかし、なぜだか操縦ミスなどの人為的なエラーが絶えなかったとか。どうやら、コックピットが平均に合わされているので、腕の長さや足の届き具合など、ちょっとした違いに、「人がコックピットに合わせる」ようになっていたようです。その上、それに合わない極めて優秀な人員が採用されていない。同質性のリスクである「排除のメカニズム」が働き、組織としての能力を発揮できていないことに。

それに気づいたアメリカ空軍は、それ以降、「コックピットを個人に合わせる」ように設計し直すとともに、身長体重などの制限を撤廃。多様で優秀な人員を確保することに成功し、組織のパフォーマンスの最大化にも成功。「平均」という固定概念を捨てたところに、この盲点の解決があったのです。

なるほど、納得。

人は社会的な生き物なので、他人を気にするな、と言われても大変難しいことに違いない。しかし、平均はむしろ私たちを惑わしかねない。

我が榎木っ子の成長も、すべて人それぞれ。むしろ、違うことを前提に、互いの個性へのリスペクトこそが大切であることに気づかされます。他者の尊厳にコミットすることこそ、自らの個性を花開かせる契機になるはず。いよいよ2月。今年度もラストスパートに突入。ぜひ、お子様の個性的な成長に、各ご家庭でも目を向けていただければ幸いです。